

ふるさと わがまち わが地域

自然の恵みと伝統を継承する谷内(たにうち)地区(更新1)281108

世帯数 27世帯
人口 51人
(平成28年10月末)

前回(27/5)より
世帯数 変化なし
人口 ▲2

★地区概要



谷内地区は、昔は宮津のお殿様の領地で、そのお殿様が土地の名前を付けていたそうです。そして、上山から谷内地区を見た時、谷の中に家が見えたので谷内という地名になったという一説があります。

集落は、南側山裾より上地(1部中地を含む)、馬繋ぎ、下地と3つに集団が分かれています。昭和30年には、38世帯、177人(明治40年には、37世帯、222人)が住んでいました。其の昔、谷内集落は谷内川をさかのぼり南側の山裾に出合千軒と言われる平地があり現在は杉林になっていますが、当時その近辺には何軒かの集落を営んでいたと思われます。近年までは、農業と織物(帯地など)の両輪で生活していましたが、現在は農業(水稻)が中心です。また鳥獣被害については、京丹後市と連携しながら対策(防護柵設置など)をとっているものの、他地区に比べてサル等の出没が非常に多く、頭を痛めている状態です。さらに、府道久保・伊根線(652号線)の谷内入口付近が狭く、大型自動車のすれ違いが厳しいのでこの状況を解消すべく、現在、京丹後市とともに取り組んでいます。



谷内区民館

10月秋祭りの太刀振りの拠点
天保年間の祭具が残っていることから、江戸時代(180年前)ころから始まっていると思われる。
二人組で行い
露払い 子供、(現在は子供不在のため大人が代役。)

中太刀 青年壮
大太刀 荘年壮



馬つなぎ橋



落や橋

吉野川に架かっている、何の変哲のない**ふつうの橋**ですけど実は、昔々(平安時代後期)、源氏の武将佐々木高綱の一行が谷内を通った時に谷内の中在で休み、その時、馬をつないだ所を**馬(うま)つなぎ橋**と呼ぶようになりました。その場所には、馬の足跡を表すウマツナギ石が残っています。

そして、馬つなぎ橋から南方向の山に向かって矢を撃ったら川の方(上在)に落ちました。その矢の落ちた所を**落(おち)や橋**と言うようになりましたと地元では言い伝えられています。



馬つなぎ石

馬蹄形を表す馬つなぎ石。
当時は、馬つなぎ橋の近くにありましたが、現在は、墓地の入口の桜の木の根元に移されています。
石をじっくりと見ながら、想像してみてください。歴史が、あなたの目の前に甦ってくると思います。



城谷山 宝珠寺

本尊、薬師如来像。元禄元年(1688)の頃、禅雲龍師が建立。
歴代住職の墓石は17を数える。現在無住職で常德寺(平)に属します。





下地(しもぢ)の三柱神社

平成23年9月の台風21号により御神木倒木し、神社倒壊する。平成23年12月20日に新たに再建する。



ウマツナギ(中地・なかぢ)の八幡神社
村社 立岩神社

明治4年村社となる。立岩神社は、上の谷内から山奥2kmの立岩川のほとりを登ったところにあったが、昭和37年10月11日にご神体だけを中の谷内(マツナギ)に遷した。



上地(かみぢ)の八柱神社

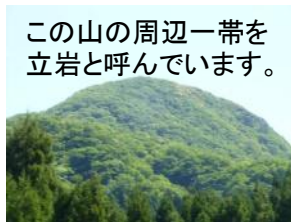
★地域の資源

産物

谷内の谷には、ウド(独活)、のぶき(野蓴)、わさび(山葵)、みずな(水菜)、せり(芹)、さんしょ(山椒)等の豊かな山菜に恵まれた地域です。

また、吉野川上流の立岩川にはサンショウ(山椒)魚も生息しています。

この山の周辺一帯を立岩と呼んでいます。



わらび

お米

寒暖差があり、粘土質の土地柄で良質米がとれます。**ぜひぜひ、食べてみてください。**

また、地元に伝わるおはぎも機会がありましたら食べてみてください。それぞれの家庭の味があると思いますが**ぜひ食べてみてください。**

春は「ぼたもち」、秋は「おはぎ」。



鉱物

水晶を採取できる場所があり、この地では水晶畑と呼ばれています。

場所については、写真を掲載することができませんのでご了解ください。



こごみ



谷水菜



ぜんまい



講師の先生のあいさつ



みなさんバタバタと



あんにフルーツ(覆盆子)を包んでいます。

平成27年2月吉日

ひまわり会の皆様へ

ひまわり会世話係 上在 祝前イソ野
中在 増田春野
下在 吉江桃子

フルーツ大福を作ろう

まだこの前、年が明けたかと思っていましたら、早、2月も半ばを過ぎようとしています。
あわただしくなる前に少しほっこりしたいなと思い計画しました。
皆さん誘い合わせて、ご参加ください。

- 1、日時 平成27年3月21日(土) 午前9:30分集合
- 2、場所 宇川加工所(旧宇川保育所)
駐車場は宇川加工所の下、農協跡地
- 3、持参物 エプロン
- 4、参加費 1,000円(昼食代、フルーツ大福材料費)
- 5、日程 ・9:30分〜 大福づくり
・11:30分頃 〜 昼食
・コーヒータイム
・午後1:30分ごろ解散

※ 参加される方は3月15日までに各町内の世話係にご連絡ください。

・祝前 ☎76-0629
・増田 ☎76-0616
・吉江 ☎76-0605



平成27年3月21日(土) 午前9:30から「ひまわり会」の皆さんが、宇川加工所でフルーツ大福づくりの講習会を開催しました。

当日は第3土曜日で、「わくわく子供教室」の生徒たちも一緒に参加して、和気あいあいとしながら一緒にフルーツ大福を作りました。

試食後、谷内地区婦人会年度末総会が開催されました。



出来上がったフルーツ大福です。



子供達と一緒に試食会です。



谷内地区の太刀振りです。
平成28年10月9日(日)

太刀振りを奉納しています。
太刀の型は「露払い」です。
本来は子供2人で行いますが、少子化で現在は大人が行っています。



中太刀の奉納(谷内区民館横)

中太刀 ー青年が担当し、激しい動きです。
大太刀 ー壮年が担当し、ゆっくりとした動きです。



少子高齢化に伴い担ぎ手の負担を軽くするため、曳き屋台用の装置が10年以上に前に取り付けられています。



立岩神社で祈願



地区内を「傘鉾」を先頭に、祭りの屋台が神社へ移動中です。

谷内の太刀振り

古く江戸時代から伝えられています。
五穀豊穡と無病息災の意味を込めて勇壮に行われます。
昔の御前試合を形どったものと言われ武術の基本形を綴って振られる組太刀があります。
太刀振りには、「ムナ切り」「ヒザ切り」「勇み太刀」「抱い込み」「犬棒」「高太刀」と基本形が伝えられています。

奉納太刀振り

先ず、稚児2人で露払い、次に小太刀、中太刀、大太刀、の順に各2人1組で神前で、野太鼓に合わせて奉納します。
太刀の合間に野太鼓の乱れ打ちは勇壮に響きます。
なお、現在は小太刀が行われていません。

また、由来について竹野地域の乗原地区より伝えられたとする説もありますが定かではありません。



昭和61年当時の「露払い」を奉納する稚児(小学生)たちです。